

第5次健幸おおの21策定のために実施した関係団体へのヒアリング調査のまとめ

資料3

《各団体の目標達成度・課題・効果等》

推進項目	団体名	令和8年度までの取り組み	目標	目標達成度	課題	取り組みを実施したことによる効果（影響）
① 身体活動	医師会	1) 特定健診・特定保健指導において健診結果に基づいて運動指導を実施する。 2) 各講座の講師として積極的に協力する。	年7医療機関	80%	冬期の運動維持。	体重維持ができています。
	歯科医師会	1) フレイル予防の観点で運動を勧める。 2) 運動不足による肥満は歯周病を悪化させるということで運動を勧める。	年9診療所	10%	説明する時間がない。	(記載なし)
	薬剤師会	1) 健康相談の場として薬局を活用してもらう。 2) かかりつけ医の受診を勧める。 3) 薬(処方箋薬)の正しい服用について指導する。	全薬局	50%	・業務多忙で相談時間不足。 ・若者の必要性認識不足。 ・飲み忘れ者への提案方法。 ・受信勧奨をするも近隣に適した医療機関がない。	・リピーターとして来店してくれている。 ・何気ない話から健康相談につながった。 ・薬の相談が増えた。 ・自己判断による服薬中断が減少。
	老人クラブ 連合会	1) 夏休みラジオ体操運動を推進する。 2) 体育大会、公式輪投げ大会を実施する。 3) ウォーキング事業を実施する。	全クラブ	90%	プログラムの刷新は考えにくい。	フレイル予防、心身共に健康になった。
	区長連合会	1) 各区長会を通じ、運動に関する各種イベントについて周知し、多くの参加を呼びかける。 2) 地区のイベントを、大野市のホームページで情報発信する。	(記載なし)	50%	地区のイベントを大野市のHPで情報発信すること。	長生会等で健康に関する学習会、講習会を実施することがすすめられた。

推進項目	団体名	令和8年度までの取り組み	目標	目標達成度	課題	取り組みを実施したことによる効果（影響）
	小中学校 校長会	<p>1) 教育活動の中で、運動を推進する活動を継続的に実施する。</p> <p>2) 児童生徒が学校や家で体を動かして遊ぶ機会が多くなるように働きかける。</p> <p>3) 積極的に社会体育（各種大会）への参加を促す。</p> <p>4) P T A活動で運動を伴う活動を企画し、参加を促す。</p> <p>（実施校率＝達成校÷全学校数×100）</p>	<p>1) 実施校率 100%</p> <p>2) 実施校率 100%</p> <p>3) 実施校率 100%</p> <p>4) 実施校率 2 年間で 90%</p>	92%	<p>・継続的な時間の確保と意欲の維持</p> <p>・各種大会への積極的参加促進が難しい。</p> <p>・体力的数値は下降気味。</p>	<p>・外遊びする児童が増加（芝生化の効果等）</p> <p>・PTA 親子種目やドッジビー練習等で運動機会の効果・楽しく体を動かすことが定着。</p>
	大野商工 会議所	<p>1) 特定保健指導継続支援（職員対象）として、健診結果をもとに産業医による指導を受ける。</p> <p>2) 健康経営優良法人認定申請を行う。</p> <p>3) 健康習慣に関するアンケート（職員対象）を実施する。</p> <p>4) 24時間電話健康相談サービス（職員対象）を整備する。</p> <p>5) 運動機会増進アプリを推進する</p>	<p>1) 年1回以上</p> <p>2) 年1回</p> <p>3) 年1回以上</p> <p>5) 年1回以上</p>	70%	<p>電話相談、アプリの利用促進回数が少なかった。</p>	<p>アンケートによりアプローチ対象が分かる。</p>
	食生活改善 推進員連絡 協議会	<p>1) 簡単にできる運動を紹介する。 （自主研修・リーダー研修・健康ランチバイキングの開催時）</p>	<p>1) 年7回 年200人</p>	75%	<p>イベント参加者に運動を紹介する機会を増やす。</p>	<p>運動の必要性の普及。</p>
	JA 福井県 女性部 テラル支部	<p>1) 健康体操講座等を実施する。</p> <p>2) 和テラ体操の普及を行う。</p> <p>3) 県主催のウォーキング大会に参加する。</p>	<p>1) 月1回</p>	80%	<p>和テラ体操普及の場を増やす。</p>	<p>健康への意識向上、自宅での定期的な体操実施。</p>

推進項目	団体名	令和8年度までの取り組み	目標	目標達成度	課題	取り組みを実施したことによる効果（影響）
	奥越健康福祉センター	1) 地域の健康づくり実践団体リーダー等との連絡会や研修会を実施する。 2) 健康づくりに関する情報提供、関係機関と連携した健康づくりの実践等を行う。	(記載なし)	50%	地域や職域で健康づくりに関与する各種団体等と、地域・職域連携推進協議会にて協議を行い、相互のウォーキング事業を連携して周知する取り組みを行っているが、効果的な周知や周知の効果については検証が必要。	周知の効果については、今後、「地域・職域連携推進協議会」において確認予定。
	大野市スポーツ推進課	1) 「スポーツ教室」や「各種スポーツ大会」の実施及び広報啓発を行う。	1) 実施数 年 200 回	75%	市民の高齢化により各種スポーツ大会の参加者が減少し、継続が困難となっている。	<ul style="list-style-type: none"> 参加者のニーズに合わせた教室開催で満足度向上。 ウェルビーイング向上に寄与。 アーバンスポーツなど新規メニューによる機会提供。 コミュニティ形成、団体加入への寄与。
	大野市健康長寿課	1) ヘルスウォーキングプログラムによる「歩く健康」を実施する。 2) 市民向けの講座で運動講座を開催する。 3) 健康プラスデー（筋肉量の測定会）を開催する。 4) フレイル予防の普及啓発を行う。	1) 随時 2) 年 10 回 3) 年 12 回 4) 年 5 回以上	60%	<ul style="list-style-type: none"> ウォーキングプログラム参加者は年々拡大し、人口の約1割に達した。1年目の平均歩数は開始時と比較して増加するが、モチベーション維持と習慣化が課題。 市民が気軽に参加できる機会を増やすことが課題。 フレイル予防を推進するサポーター活動のフォローアップを行うことが必要。 	<ul style="list-style-type: none"> 医療費と介護給付費抑制に一定の効果を得られた。 自身の健康に関心を持ち、健康づくりに取り組む人が増えた。
②栄養・食生活	医師会	1) 特定健診・特定保健指導において、健診結果に基づいて食事指導を実施する。 2) 各医療機関で栄養指導を強化する。（栄養士の活用） 3) 各講座の講師として積極的に協力する。	年7医療機関	80%	冬期の塩分制限。	血圧の維持。
	歯科医師会	1) むし歯、歯周病予防ということで食事指導をする。	年9診療所	60%	(記載なし)	むし歯は減少している。

推進項目	団体名	令和8年度までの取り組み	目標	目標達成度	課題	取り組みを実施したことによる効果（影響）
	薬剤師会	1) メタボリックシンドローム予防のための食事と生活習慣を点検し、具体的な提案に心がける。 2) 小冊子、健康マガジン、パンフレットを活用する。	全薬局	50%	・理解していても提案が守れない。 ・小冊子等は置いてあるだけで持っていけない。	生活習慣病に関しては、気にする人が増えている。
	老人クラブ連合会	1) 研修会で「高齢期の食事」について学ぶ。	年1回	70%	市老連本体の事業としても検討すべき。	食事について日ごろから注意して献立を考えるようになった。
	区長連合会	1) 各区長会を通じ、健康な食に関するチラシの配布などの啓発を行う。	(記載なし)	30%未満	食に関する効果的なチラシの作成。	(記載なし)
	小中学校校長会	1) 保護者に対して、参観授業やPTA活動で食事に関する教育を企画し、参加を促す。 2) 児童生徒や保護者に対して、栄養教諭と協力し、郷土料理や地場産食材についての学習や実習を取り入れた教育活動やPTA活動に取り組む。 (実施校率=達成校÷全学校数×100)	1) 実施校率 90% 2) 実施校率 90%	92%	・事前準備や連携に時間を要する。 ・保護者の数値向上は難しい。	・地場産食材への認知・関心向上 ・SDGsの学び。 ・家庭でのメニュー増加、意識向上。
	大野商工会議所	1) 生活習慣病予防健診の結果に基づき、保健師・管理栄養士による個別相談を受ける。(職員対象) 2) 会報等を利用した、食事に関する健康情報を提供する。	1) 年1回以上 2) 年6回以上	50%	会報等での情報提供については実施できなかった。	個別相談対象職員への意識づけ効果。

推進項目	団体名	令和8年度までの取り組み	目標	目標達成度	課題	取り組みを実施したことによる効果（影響）
	食生活改善推進員連絡協議会	1) 生活習慣病予防の献立、実習を実施する。 2) 親子、男性対象に食育教室を開催する。 3) 健康ランチバイキングを開催する。 4) 魚のさばき方教室を実施する。 5) 牛乳、乳製品を使った料理教室を開催する。 6) 母子栄養リーダー研修を実施する。 7) 伝承料理講習会を実施する。	1) 年7回 年180人 2) 年3回 年80人 3) 年1回 年50人 4) 年2回 年50人 5) 年2回 年30人 6) 年1回 年30人 7) 年1回 年20人	100%	イベント参加者が固定化しているため新規参加者の開拓が必要。	良い食生活や食育について普及啓発できた。
	JA 福井県女性部テラル支部	1) 「食と農を守る運動」を推進する。 ①郷土・農よいとこセミナーを開催する。 ②管内の小学校での出前事業を実施する。	1) ①年2回 ②年1回（市内）	70%	出前事業未実施。	自分で栽培・調理を行うことで達成感と意欲向上。
	奥越健康福祉センター	1) 管内給食施設の栄養・健康づくり担当者を対象とする研修会、事例報告会等を開催する。 2) 食品製造業者に栄養成分表示に関する法令や制度に関する指導を行う。また商品を利用する県民に対しては、栄養成分表示に関する啓発を行い、栄養成分表示が健康づくりに役立つ情報となるようにする。 3) 福井の食材を多く使った低塩分で野菜たっぷりなヘルシーメニューや、たんぱく質に配慮しフレイル予防に向けた食事がとれる「ふくい100彩ごはん」の提供店を拡大し、食環境整備を推進する。	1) 年3回	70%	1) 管内給食施設対象の研修会等について計画に沿って実施している。 2) 栄養成分表示に関する相談や指導については適宜対応を実施している。 3) 「ふくい100彩ごはん」については、提供店を増やすことが難しく、県民の認知度もまだまだ低いため、提供店の拡大と認知度の向上が課題。	管内給食施設の栄養・健康づくり担当者を対象とする研修会、事例報告会の開催に関しては、参加者から「参考になった」との声が多くあり、地域における「切れ目のない栄養管理」の推進の一助となっていると考えられる。

推進項目	団体名	令和8年度までの取り組み	目標	目標達成度	課題	取り組みを実施したことによる効果（影響）
	大野市農業 林業振興課	1) 「食守」を基本理念として掲げ、食育の啓発を行う。	(記載なし)	80%	・イベントの集客力に課題・若者世代の参加が少なく、興味を引く必要がある。	食育啓発イベントや写真コンテスト等により、食育について考えるきっかけとなった。
	大野市 健康長寿課	1) 健康栄養相談を実施する。 2) 育児相談会で栄養・食事相談を実施する。 3) 関係機関と連携した食育事業を実施する。 4) 食生活改善推進員リーダー研修会を実施する。 5) 食生活改善推進員地区活動を支援する。 6) 高齢者対象の栄養講座を実施する。 7) 働く女性や若い女性を対象にした栄養講座を実施する。	1) 年6回 年30人 2) 年24回 年480人 3) 年6回 年120人 4) 年6回 年100人 5) 年12回 年150人 6) 年14回 7) 年6回	60%	生活の中で意識してもらうため、目標（減塩、甘い飲食物を減らす、緑黄色野菜を毎日食べる、バランスに配慮する）を強調して取り組むことが必要。	調理実習や試食などを通して、減塩や緑黄色野菜のレシピなどを普及・啓発することができた。
③たばこ・アルコール	医師会	1) 各医療機関で喫煙者に対して、喫煙による健康被害について説明し禁煙を勧める。必要な場合は、禁煙教室や禁煙外来を勧める。 2) 各講座の講師として積極的に協力する。	年7医療機関	30%	アルコール、特に缶チューハイの制限。	飲酒多量の場合、内科的アプローチが困難と思われる。
	歯科医師会	1) たばこは歯周病の最大の危険因子ということで禁煙を勧める。	年9診療所	70%	(記載なし)	不明。
	薬剤師会	1) 禁煙相談、医療機関の禁煙外来を紹介する。 2) 禁煙支援医薬品の正しい使用方法を指導する。 3) 学校薬剤師として、たばこの書を啓発する。	全薬局	30%	・自力で止められると思いついでいる。 ・禁煙補助剤への理解不足。 ・健康被害を将来の話だと思いついて実感していない。 ・禁煙相談の掲示がなく相談がなかった。	・喫煙者は減っていると思われる。
	老人クラブ 連合会	1) 会議、研修会、スポーツ大会では禁煙にする。	(記載なし)	100%	特になし	会員への禁煙の周知につながった。

推進項目	団体名	令和8年度までの取り組み	目標	目標達成度	課題	取り組みを実施したことによる効果（影響）
	区長連合会	1)各区長会を通じ、たばこの健康被害について啓発する。	(記載なし)	30%未満	たばこの健康被害について啓発するチラシ等の作成。	(記載なし)
	小中学校校長会	1) 児童生徒に対して禁煙教育を授業等で実施する。 2) たばこの害について啓発し、分煙等の協力を家庭に呼びかける。 3) 食教育や保健教育を通して、アルコールの摂取による身体への影響を知る。 (実施校率=達成校÷全学校数×100)	1) 実施校率 100% 2) 実施校率 80% 3) 実施校率 80%	93%	・家庭への分煙協力呼びかけは学校の役割を超える恐れ。 ・全校一斉指導の難しさ。	・学校薬剤師と連携した説得力ある実践。 ・児童の有害性理解、将来への思考。
	大野商工会議所	1) 敷地内禁煙を実施する。 2) 会員事業所向けに、がん保険加入についての広報を行う。	1) 100% 2) 年2回以上	100%	なし	(記載なし)
	食生活改善推進員連絡協議会	1) 会員、家族に禁煙を勧める。	(記載なし)	60%	家族から禁煙を進めても意識の改革は難しい。	禁煙の必要性を伝えることは出来た。
	JA 福井県女性部テラル支部	1) 動脈硬化検査、頸動脈エコー検査、骨密度測定を実施する。 2) がん予防のための各種検査を実施する。	年2回/年1回以上	100%	検査人数及び時期の検討。	検査希望人数が増え、関心の高さが伺える。
	奥越健康福祉センター	1) 世界禁煙デーにおける街頭キャンペーン、各研修会等で、受動喫煙防止対策の強化および禁煙の普及啓発を行う。	年1回	70%	大野市内の小中学校、高校対象に喫煙防止に係る出前授業（小学校2校、高校1校）を行った。しかし、一般住民に対する受動喫煙防止および禁煙の普及啓発ができていないことが課題である。	出前授業の中でたばこの有害物質と身体への影響、また依存性などについて啓発できた。

推進項目	団体名	令和8年度までの取り組み	目標	目標達成度	課題	取り組みを実施したことによる効果（影響）
	大野市健康長寿課	1) アルコール関連問題啓発週間(11/10~16)において、市報による適正飲酒量の啓発を行う。 2) 特定保健指導などで喫煙者への禁煙指導や禁煙教室を実施する。 3) 妊娠届出時や1歳半・3歳児健診の際に、適正飲酒や禁煙についての啓発活動を行う。 4) 世界禁煙デーにおける街頭キャンペーンで、受動喫煙防止対策の強化および禁煙の普及啓発を行う。 5) 学校と連携し、アルコールや禁煙についての普及啓発を実施する。	1) 年1回 2) 随時 3) 随時 4) 年1回 5) 年1回以上	80%	・広報やホームページなどで周知啓発しているが、無関心層には情報が届きにくい。プッシュ型での情報発信を組み合わせるなど、より多くの人に届けられる工夫が必要。 ・問題飲酒については、特定保健指導や家族の相談など把握する機会が限られる。適正な飲酒量や相談窓口の周知が課題。 ・若年層の喫煙率は年々低下しているが、喫煙者のうち加熱式タバコの利用割合は増えている。加熱式タバコの体への影響について啓発していく必要がある。	・アルコールやタバコに関する知識の普及。 ・妊婦や子どもなど特に身体への悪影響が大きい人への啓発効果。
④休養・こころの健康	医師会	1) かかりつけ医としてこころの問題の相談を受ける。必要な場合は、専門医を紹介する。 2) 奥越地域産業保健センターの出務に際して、産業医としてメンタルヘルスケアを行う。	年7医療機関	100%	今後認知症患者が更に増加すると思われる。	老々介護に対して負担が少し軽減できた。
	歯科医師会	1) ストレスは顎関節症、歯周病にも関係するということでストレスをためないように指導する。	年9診療所	10%	(記載なし)	なし。
	薬剤師会	1) 健康相談の場として薬局を活用してもらう。 2) かかりつけ医の受診を勧める。 3) 薬(処方箋薬)の正しい服用について指導する。	全薬局	80%	・混雑時の対応。 ・地域に専門医がなく受診できない方がいる。	・相談しやすい環境を作れた。 ・世間話も含め話しやすい場所と感じている。

推進項目	団体名	令和8年度までの取り組み	目標	目標達成度	課題	取り組みを実施したことによる効果（影響）
	老人クラブ 連合会	1) 友愛訪問活動において、声かけ・話し相手になることで、閉じこもり・孤独になることを防ぐ。 2) いきいき演芸会を開催する。	1) 全クラブ 2) 年1回	90%	文化会館閉鎖により今後の演芸会開催が困難。	・高齢者が孤独な環境に陥ることを防ぎ、心身の健康につなげることができた。 ・会員の生きがいやモチベーションの維持に繋がっている。
	区長連合会	1) 各区長会を通じ、こころの健康やストレス解消法に関する講座について周知する。	(記載なし)	30%未満	こころの健康、ストレス解消法に関する講座の案内文書の作成。	(記載なし)
	小中学校 校長会	1) 児童生徒の心の状態を知るアンケートを実施し、精神的に不安を抱えている児童生徒に対する対策を検討する。 2) 教職員に対して、ストレスチェックや心の状態を把握するため面接等を行い、対策を検討する。 (実施校率=達成校÷全学校数×100)	1) 実施校率 100% 2) 実施校率 100%	100%	その日の気持ちによってアンケート結果が左右される。	・児童理解が進み適切な指導が可能に ・学校が楽しいと回答する児童増加 ・ストレスチェックの活用。
	大野商工 会議所	1) ストレスチェックを実施する。(職員対象) 2) 年次有給休暇の取得促進に関する広報を行う。(働き方、休み方改革の推進及び、過労死防止のための対策として企業の労使一体での年次有給休暇の取得向上を目指す) 3) 会員事業所向け健康診断を実施する。 4) 心と身体の健康相談会を実施する。 5) 会員に健康経営優良法人認定申請を推進する。	1) 年1回以上 2) 年1回以上 3) 年1回以上 4) 年1回以上 5) 年間5社以上	50%	ストレスチェックは費用が高額になり実施をためらう。	(記載なし)

推進項目	団体名	令和8年度までの取り組み	目標	目標達成度	課題	取り組みを実施したことによる効果（影響）
	食生活改善推進員連絡協議会	1) 家族・地域で食生活改善を通じたコミュニケーションを図る。	(記載なし)	80%	若い世代が参加しやすい環境作りが必要。	調理実習を通して交流しコミュニケーションを図れた。
	JA 福井県女性部テラル支部	1) ライフプラン勉強会を開催する。 2) 演奏会を開催する。	1) 年1回以上 2) 年1回以上	100%	講師との日程調整、演奏時間の確保、ニーズ把握。	地域の文化人に興味を示していた。
	奥越健康福祉センター	1) ストレスマネジメントの研修会を開催するなどし、普及啓発を行う。 2) こころの相談会を実施する。 3) 保健師による相談、訪問指導を実施する。	1) 年1回	60%	相談会は一定の利用があり継続実施できており、保健師による相談や訪問指導も適宜行っている。一方で、働く世代向けの研修会（出前講座）は希望者が伸びにくく、より効果的な周知や参加につながる工夫が求められることが課題である。	相談会の参加者からは「悩みが解決した」「相談できてよかった」などの前向きな意見も寄せられており、相談会が一定の役割を果たしていることがうかがえる。
	大野市健康長寿課	1) 地域のサロンなどで、こころの健康講座を開催する。 2) 介護者にこころの健康づくりとして家族介護教室を開催する。 3) 高齢者の通いの場を設置する。 4) 産婦健診、乳児全戸訪問事業において、エジンバラ産後うつ質問票を実施し、産後早期から育児不安を抱える母を支援していく。 5) こころの健康づくり週間（3/15～21）において市報などによる啓発を行う。	1) 年2回 2) 年10か所 年250人 3) 90か所 4) 年180件 5) 年1回	80%	・ストレスやこころの相談窓口について、必要な人に情報が届くよう、様々な機会をとらえて情報発信することが課題。 ・働き盛り世代に対しては、商工会議所などと連携し、定期的なストレスチェックや、睡眠の質の大切さなどについて、健康経営の観点から啓発していく必要がある。	・介護者が気軽に相談したり交流できる場を設けることで、介護者の孤立を防ぎ、在宅介護の不安軽減をはかることができた。 ・出産や育児の不安軽減により、産後うつ予防や孤立防止につながっている。
⑤歯・口腔の健康	医師会	1) 口腔ケアのための医科歯科連携を図る	(記載なし)	30%	内科的なアプローチが困難。	特になし。

推進項目	団体名	令和8年度までの取り組み	目標	目標達成度	課題	取り組みを実施したことによる効果（影響）
	歯科医師会	1) 健診（妊婦健診、住民健診等）、相談、フッ素塗布を実施する。 2) 歯の健康ひろば（フッ素塗布、ブラッシング指導、口腔内細菌の観察、健診）を実施する。 3) 訪問診療に協力する。	1) 年9診療所 2) 年1回	60%	（記載なし）	口腔内の状態は良くなっていると思う。
	薬剤師会	1) 健康相談時に、かかりつけ歯科医に早めの受診を勧める。 2) オーラルケア用品を提案して歯の大切さを説明する。	全薬局	50%	・受診することにハードルがある。 ・オーラルケア軽視。 ・正しいケアをしていない。 ・処方箋を持参した患者への提案時間不足。 ・高齢患者が施設の構造やバリアフリー等を把握できていない。	・薬用歯磨き等のリピート。 ・歯間ブラシ等の購入増加。
	老人クラブ 連合会	1) 研修会で「口腔ケア」の学習をする。	1) 年1回	50%	喉を鍛える意味合いになったので、具体的な口腔ケアを学ぶ会も検討したい。	笑い合ったことで脳トレ、喉の鍛錬になった。

推進項目	団体名	令和8年度までの取り組み	目標	目標達成度	課題	取り組みを実施したことによる効果（影響）
	区長連合会	1)各区長会を通じ、6024運動の啓発や、健康な歯と口腔に関する講座について周知する。	(記載なし)	30%未満	口腔ケアの周知を目的とした歯科医と区長会の連携。	(記載なし)
	小中学校 校長会	1) 給食後や家庭での歯磨きを推進するよう取り組む。 2) 外部組織と連携しながら、歯の健康維持についての教室を実施する。 3) 児童生徒の家庭での歯磨きの実態を調査し、指導に活かす。 4) 永久歯のむし歯を予防するよう取組み、DMFTを減らす。 *DMFT：一人平均の永久歯のむし歯の数（処置済みも含む） *「大野市学校保健統計」の結果を利用する。	1) 実施校率 100% 2) 実施校率 3年間で80% 3) 実施校率 90% 4) 11歳 DMFT 男子1以下 女子1以下 12歳 DMFT 男子1以下 女子1.2以下	87%	家庭による意識のばらつき。	・歯の健康への関心向上、治療率向上 ・歯磨き習慣の定着。
	大野商工 会議所	1) 歯の健康に関する広報を行う。	1) 年1回以上	50%	歯の健康診断受診に関しては関心が薄い。	職員向けのみ行った。
	食生活改善 推進員連絡 協議会	1) 6024運動、8020運動を勧める。	(記載なし)	0%	歯・口腔の健康について取り組む機会が少ない。	(記載なし)
	JA 福井県 女性部 テラル支部	1) 女性部員を対象に共同購入時に薬用ハイドロキシアパタイト使用の歯磨き粉と歯ブラシを取り入れる。	1) 年2回	100%	物価高の影響により注文数が減少傾向。	購入者は長く愛用、効果を実感している。

推進項目	団体名	令和8年度までの取り組み	目標	目標達成度	課題	取り組みを実施したことによる効果（影響）
	奥越健康福祉センター	1) 妊産婦歯科健診の普及啓発を行う。 2) 福井県の子どものむし歯の状態を調査し、子どもの歯の健康づくりに取り組む。	(記載なし)	80%	1) 妊産婦歯科健診の普及啓発として、ポスター掲示を実施した。しかし、センターに来所する妊産婦が少ないため、効果が限定的。 2) 福井県の子どものむし歯の状態を把握するため、県健康政策課が主体となり、県内の保育施設に対し調査を行い、センターで回答の取りまとめを行った。奥越管内の回答率は100%であった。	子どもの歯の健康に関する調査では、大野市内すべての保育施設から回答を回収でき、子どもの歯科保健対策の検討、推進に活用できる。
	大野市健康長寿課	1) 成人歯科検診・歯科相談を実施する。 2) 広報などに歯・口腔の健康に関する情報を掲載する。 3) 歯科医師会の歯科保健事業（歯・口腔の健康に関する行事）に協力する。 4) 幼児健診でフッ素塗布を実施する。 5) 幼児健診で歯科衛生士による歯科相談を実施する。	1) 年 25 回 年 700 人 2) 年 1 回 3) 年 1 回 年 200 人 4) 年 24 回 年 400 人 5) 年 24 回 年 400 人	80%	・令和6年度から歯周疾患健診を開始したが、受診率は対象者の9%程度にとどまる。若い世代（20-50代）の受診率向上が課題。 ・幼児の虫歯罹患率は、経年的に改善傾向にある。食生活や歯磨きなど、幼少期から口腔衛生についての適切な生活習慣を継続できるよう年齢に応じた支援が必要。	・歯周疾患の早期発見と治療 ・虫歯予防の周知啓発 ・予防歯科に関する知識の普及啓発

《今後の展開に向けた提案等》

問1 今後の事業や活動のあり方、周知啓発の課題について

- ・市や県による SNS を活用した情報発信や、ポスター掲示・チラシ配布場所の見直しが挙げられています。一方で、SNS を使えない層への周知方法の検討も必要とされています。
- ・年齢層に合わせた周知啓発や、若者（若い世代）が参加しやすい環境づくり・取り込みが必要との意見が複数あります。また、幅広い年齢層が継続して取り組める事業展開も提案されています。
- ・国や県、他部署等の関係機関と連携・情報共有し、効果的な啓発や類似教室の共同開催を行うべきとの意見があります。また、行政と学校が同一歩調で進めることも重要視されています。

- ・アンケート等で参加者のニーズを把握し、開催する曜日や時間帯を工夫することが求められています。
- ・相談しやすい環境（スペース）作り、検診等で異常があった際の放置防止（確実な受診説明）、老々介護の負担に対する配慮などが挙げられています。
- ・社会貢献や世代間交流ができる新規事業の検討が提案されています。

問2 市民の健康づくりに効果的だと思われる取組（アイデア）について

- ・年齢・レベル別の体操教室、多職種連携による健康フェア、継続的・定期的な講座やイベントの開催が効果的とされています。家族で取り組めるイベント、自然（登山やハイキング等）を活かしたイベント、公園での朝のラジオ体操なども提案されています。
- ・学校や保育施設などの団体単位での教室開催、健康づくりの拠点設置、使いやすい健康アプリの開発、ナッジ（自然と健康になれる環境づくり）の活用が挙げられています。
- ・地産地消を活用した健康講習会や、グルメイベント・そば祭りでの啓発ブース出展、市内飲食店での健康・地場産メニューの提供、公民館行事での試食を通じた啓発が提案されています。

問3 市に要望したいことについて

- ・ウォーキングポイント付与のような既存イベントの拡充や、市民認知度が高く効果のある取り組み（ヘルスウォーキング等や食育活動）に対する確実な予算措置が要望されています。
- ・独居老人に対する見守り体制、イベントや講習会への参加のしやすさの向上、市内企業と連携できる機会づくりが挙げられています。
- ・文化会館の閉鎖に伴い、例年開催していた大規模イベント（いきいき演芸会など）の代替施設確保と莫大な設営費用の問題が生じるため、市からの具体的な代替案や支援の提案が求められています。
- ・まずは市役所職員や教職員の禁煙を進めるべきとの声があります。

問4 その他

- ・サークルなどによる健康づくりの推進が提案されています。
- ・県が推奨する「e スポーツ」について、市に事業推進の方針や機材購入などの支援があれば、老人クラブでも事業として検討したいとの意向があります。
- ・食生活改善推進員の立場からは、歯・口腔の健康に関する食改としての活動は難しいとの率直な意見があります。
- ・奥越健康福祉センターからは、県の計画にある「歩行」と「減塩（省塩）」の推進について、大野市と今まで以上に連携して取り組んでいきたいとの前向きな意見が寄せられています。

《まとめ》

①身体活動

小中学校で運動推進活動や外遊びの奨励を継続的に行った結果、児童の外遊びが増加し、楽しく体を動かす習慣が定着しています。また、老人クラブ等でもラジオ体操や大会を通じて高齢者が体を動かす機会が作られ、心身の健康維持やフレイル予防といった確かな効果を生み出しています。

②栄養・食生活

食生活改善推進員による献立実習などの実践活動が、地域における良い食生活や食育の普及啓発に大きく貢献しています。これに加えて、小中学校では地場産食材を使った学習を展開しており、結果として家庭内のメニュー増加やSDGsへの学びが深まるなど、家庭を巻き込んだ食への意識向上を実現しています。

③たばこ・アルコール

老人クラブ等での会議や敷地内における禁煙ルールの徹底が、会員等への確実な禁煙周知につながっています。さらに、小中学校において学校薬剤師と連携した説得力のある授業を行うことで、児童がたばこ等の有害性を深く理解し将来について考えるきっかけとなるなど、健康被害を防ぐ教育が効果を上げています。

④休養・こころの健康

医師会によるこころの相談対応が老々介護の負担軽減に寄与する一方、小中学校ではアンケートを通じて児童のストレス状況を丁寧に把握しています。これにより児童理解が進んで適切な指導が可能となり、「学校が楽しい」と答える児童が増加するなど、多世代にわたる心のケアが充実しています。

⑤歯・口腔の健康

小中学校における給食後や家庭での歯磨き推進が、児童の歯に対する関心や治療率の向上、歯磨き習慣の定着をもたらしています。また、JA女性部が主導するケア用品の共同購入においては、参加者が商品を長く愛用して確かな効果を実感するなど、日常の身近な活動を通じた健康維持が進んでいます。